

# カトリック六甲教会 教会報

2009

9

No.453

## 変わりつつある教会

ダニエル・コリンズ神父

主任司祭が就任して、3ヶ月。少しずつ教会が変わりつつあることを感じています。教会が変わっていくことに不安を覚え、心配している方もいらっしゃるでしょうが、私はいい機会だと思います。自分自身が見つかる教会、「初心に還り、キリストの体である教会が、ここ六甲においてどのようにあることが、キリストの望みであるか」を見つめ直すチャンスだと思います。

普段から接して感じていますが、六甲教会は実に前向きです。「昔はよかった」ではなく、「これからどうすべきか」ということを現実から出発して考える人が少なくない。だからこそ、自分たちの教会を見つけられるはずです。

教会は社会の一部です。そして社会が日々変化していることを思えば、教会も変わっていかざるを得ません。社会のニーズに応える教会でなければなりません。

第二バチカン公会議での変化を思い出して下さい。その頃に私は叙階され、母が来日をしたのでとても印象に残っているのですが、それまでは全世界で司祭は会衆に背中を向けて、ラテン語でミサを行っていました。それが公会議後は、対面で、それぞれの国の言葉でミサが行われるようになりました。当然、日本でのミサは日本語で行われるのです。ラテン語のミサなら分かるでしょうが、日本語で行われるミサに母は戸惑ったと思いますよ。それでも、その変化は必要であったからこそ教会は変わっていったはずです。

変化は、信徒からの要求、反応によっても起こるものです。日々起こる問題に対して、目の前の課題に対して、私たちはどう対処するのか。責任をどう果たすのか。考え、選択した、そのやり方がいいのかどうか。行動し、反省し、再びどう行動していくか、考えなければならないことですね。

しかし、一番大切なのは教会の「変わらないところ」です。教会で何が変わらず、変えてはいけないのか。六甲教会として、本当に大切なところは何か。「変わらないところ」を見つけ、深め、評価をしなければなりません。きっと司祭が今以上に増えることはないでしょう。しかし、信徒は変わらない。その信徒自らが神のみ旨に気づき、信徒自身がどのように神の望まれる教会を作るのか。教会が変わりつつある今、見つめ直し、共に歩んでいきましょう。



## みんなの広場

### ペドロ・アルペ師

三好

戦前から戦後にかけて、イエズス会の神父として日本で活躍され、後イエズス会総長として全世界のイエズス会を統轄されたアルペ神父様の生涯を紹介した本(「ペドロ アルペ」ホアン・カトレット著 みこころセンター新世社)を読んだ。

アルペ師はスペイン、バスク地方の出身、マドリッドで医学を修め、イエズス会に入り、1938年神父として来日、山口で司牧活動、広島の高尾修練院で修練長、その後日本管区長を勤め、1965年に総長に任命されローマへ行かれました。

アルペ神父様の日本での活動の中で特筆すべき出来事は、広島での原子爆弾被爆でしょう。修練院へ救助を求めて集まる多数の被災者、負傷者を見て、「アルペ神父は聖堂に行き、祈り、そして決断をした。会の家を病院にしようというのである。」と著者は書いています。爆風で大きな損傷を受けた修練院の聖堂には150人以上の負傷者(私もその一人でした)が収容され、アルペ神父様は医者として、また神父として、自らこれらの患者の体と心の治療に専念されました。アルペ神父様が原爆直後開かれた特設病院ではイエズス会士と共に、援助修道会のシスター達が患者の看護や介護に尽力して下さいました。シスター達の広島三篠修道院は原爆で消失しました。

総長就任後、原爆投下25周年(1970年)の日にイタリアの新聞に寄稿された文書が紹介されています。その中で、原爆投下を「人間の?いやそうではない、非人間的な悲劇」、「技術を誇りたいための人間の自己破壊があり得る前兆」とし、その後の社会を「技術的、物質的進歩は道徳的、精神的、人間的な退化を伴うことを忘れてる」、「現代社会の均衡は恐怖に基づく均衡である」と厳しく警告されながら、「神は戦争や暴力を終わらせ、憎しみを終わらせ、人間の真の一致と幸せをもたらす方である。新しい人類が生まれるであろう。」と明るい未来を確信しておられます。

イエズス会総長としてのアルペ師の仕事は、第2バチカン公会議で示された教会の新しいビジョンを世界中でイエズス会で実践させることでした。そして、そのために世界各地を精力的に巡回されましたが、1981年フィリピンからタイを経てローマへ帰着した空港で倒れ、そのまま1991年に亡くなられるまで病床を離れることはありませんでした。

著者はアルペ神父様を、信仰の人、正義の人、憐れみの人、希望をもたらす人と讃えながら、随所で楽観主義者としています。それに対して師自身は「私は楽観主義者と呼ばれてうれしい。しかし私の楽観主義はユートピア的なものではなく、希望に根ざしている。神は人類にとって何がよいかを知っておられ、それを実現されると確信しています。私の楽観主義は何より神の恵みによるもの、それに私の人生経験によるものです。」と答えておられます。

多くの人が語ったアルペ師の言葉やエピソードを集めた「アルペ師の小話」(ルイス・マルティネス著みこころセンター新世社)の最後のページに「アルペ神父の個人的な祈り」として、『主イエスよ、あなただけが私をひきつける』の祈りが書いてあります。この祈りはアルペ神父様の生涯を貫く活動の原点であったと思います。

付記 「ペドロ アルペ」の著者カトレット神父様はかつて六甲教会で働いておられたことがあり、お馴染みの方も多いかと思います。

## 行事報告

### ∞∞∞∞∞∞∞∞∞ 祈りの道場（7月24日） ∞∞∞∞∞∞∞∞∞

祈りの道場？ちょっと厳しそうかな？電話で聞いた感じでは、「黙想会とっていただければ大丈夫です」と言われたので、ちょっと安心した。

転勤のため東京から今年の1月に単身赴任で、神戸にやって来た。仕事は毎日非常に忙しく、自宅にはほとんど寝に帰るだけの生活が続いている。土日は基本的に休日なのだが、山と積まれた仕事をこなしていくためには、のんびり過ごすわけにもいかない。しかし日曜のミサだけは何とか欠かさず与っていた。そんな中、所属の神戸中央教会で「祈りの道場」なるパンフレットを見つけ、また片柳神父さんのブログを拝見し、思い切って有給休暇を取って参加することにした。

小学6年生より30代前半まで、がっちり剣道をやってきた私としては「道場」と聞くと矜持を正したくなる。さてどんな道場なのだろうか。

通常の黙想会であれば、小1時間神父さんの講話があり、その後1時間位の黙想があって午前が終わり、午後も同じようなパターンで進められ、黙想時間には「赦しの秘跡」が受けられるのが一般的だ。その点、この祈りの道場は少し趣が違っていた。講話が4回あり、それぞれ15分と短い。講話が終わると15分刻みで参加者が神父さんと面接をする時間が45分ある。これで1コマ1時間が終わる。午前中2コマ、午後より2コマと進み、最後はミサに皆で与って道場は終わった。15分の講話と45分間の黙想時間（面接時間）のリズムが非常に小気味良い。レクチオ・ディヴィナ（聖書深読）と同様だ。最後の1コマの中で詩篇139の「神はわたしたちを知っておられる」が妙に心に響いた。私たちは社会人として多忙な毎日を送っている。そんな中でも神は私たちを見守られ、導いているのだという当たり前のことを忘れがちである。「神よりの神、光よりの光、まことの神よりのまことの神」というニケア・コンスタンチノーブル信条がふと浮かんだ。どのような状況下にあっても、私たちと共にいてくださる神様。会社を休んでここへ来たが、「貴方は私のことを忘れていた時もあったろう。しかし私は貴方をひと時も忘れたことはなかった」と言われているような気がした。

パドアのアントニオ 増島（神戸中央教会）

## 行事報告

### ∞∞∞∞∞∞∞∞∞ 大木神父様講演「ネパール生活30年」（7月26日） ∞∞∞∞∞∞∞∞∞

淡々と時にはユーモアを交え、ご自分をも客観視しながら話される中に、神父様の30余年にわたる永いたゆまぬ働きの中にあることを感じました。大正生れの83歳とお聞きし現場で目的を持って働くことが若さの秘訣ではないかと思いました。シスター海野という方は、海星病院を退任後50歳を超えながらフィリピンバギオで日比友好の架け橋として働かれました。聖職者以外にもいっぱい元気な方はいらっしやいます。TVで84歳で現役で魚行商をしておられる女の方の一日を紹介していた。笑顔が明るい。

ひとつのことに専心するという事は、思い・言葉・行いが一致するという事と継続だと思います。人はそんなにあれこれのことを自身納得できるほどにはなし得ないのではないのでしょうか。神父様は、医者・教師・政治家・（謙遜して）神父・ジャーナリストを挙げておられましたが、それ以外にも職人・プロスポーツマン・芸術家等、心技体の一致が大切といわれる世界にも通じると思います。唯、結果重視の今の世ですが神様はどんな意向で行っているのかをもみておられると信じています。

小学生の頃初聖体の時にあるシスターからご聖体を扱う神父は最高の仕事と言われたことをずっと心の奥に抱いて、ご自分が本当に召されているのかを謙虚に伺いながら結局は神父になられたことは、講演の日の言葉の典礼の聖書がイエズス様がパンを増やされる奇跡の箇所だったので私の心に強く響きました。

それにしても、神父様がイエズス会司祭の道を歩まれる決心を表明された時、ご両親が反対されたにも拘わらず、なんと6人の姉妹の方たちが全員シスターになって祈りと働きの内に神父様を支えてこられたというお話には感動しました。リジューの幼き聖テレジアの自叙伝を思い出しました。4人のお姉さん達が全員シスターになったこともあります。聖テレジアご自身が自分は病弱で行けないけれどと言って、インドシナで働く聖職者の方々の為に特別の祈りを捧げられた。また、同じように病弱であった聖ベルナデッタも祈りを自分の召命と捉えていたと書かれていたことと、「翼の影」という以前教会図書室で読んだ本を思い出します。日本での宣教を夢見ながら神学生になったがナチ台頭により戦争に巻き込まれ転戦。それでも司祭志願の希望を抱き続け、戦後東京板橋教会で50年間働かれたドイツ生れのグレオンゲルドマン神父の自伝です。或るシスターと修院挙げての祈りがあったことも書かれています。

それで、最後にこの私はどうなんだろう。これが一番心もとない。

- ①神の御旨を探り、探し当てそれに従って生きてきたか？
- ②自分のタレントを意識し発展させて来たか？ やるべき時にやることをやって来たか？
- ③よく祈ったか？（自分自身と他の人の為に）

聖ベルナデッタが『自分は多くの恵みを受けたのに十分それを用いなかった』と言われたことを思っています。 (飛石)

## 行事報告

∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞ 8月初金ミサ 李神父講演会（8月7日） ∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞

平和旬間の期間中の初金のミサの後、下関・細江教会の李相源（イ・サンオン）神父様の講演会がありました。松村神父様からの「イエズス会きってのカリスマ神父」の紹介どおり、圧倒的な話術で、実に新鮮な切り口で、常に笑いの絶えない楽しいお話しをお聞かせいただきました。それでも可笑しいのではなく、ユーモアを交えつつも心に響く言葉、お話をたくさんちょうだいしました。

配られたのはレジメではなく、12のキーワード。その中のひとつ「鏡」。鏡に映る自分の顔は先に笑わない。自分が笑わない限り鏡の顔は笑うことができない。自分が先に笑えばまわりも笑う。

これからも頂いたキーワードを反復しながら、自分の心を見つめていきたいと思いました。世の中に起きる出来事に無駄なものは何一つなく、そのことから目をそらしてはいけないのだ、という思いを強くした夏の一日でした。 (マリア・フランシスカ)

## 行事報告

∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞ 平和旬間合同礼拝（8月9日） ∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞

8月6日の広島、9日の長崎、そして15日の終戦と、この10日間を平和旬間と呼ぶのは意義のあることだと思えます。これらの悲劇の集中した旬間には、心から平和を祈る集いが各方面で開かれます。ことしも9日の日曜日、近在のキリスト教会が宗派の違いを超えて、当教会大聖堂で、祈りと歌で恒久の平和を祈念しました。おごそかなオルガンの奏楽にはじまり、讃美歌が随所に歌われ、平和への祈りを神港教会の高島長老があたかも平和宣言のように高らかに祈り上げました。また当カトリック六甲教会の松村主任司祭が「フランシスコ・サビエルが伝えた平和」という講話でサビエル宣教当時の日本人の英明さと平和指向を紹介されました。また六甲教会と神港教会の有志による合唱では「アッシジのフランシスコによる平和の祈り」などが歌われました。集まった人々はそれぞれの感慨を込めて心静かに平和を祈られたことと思えます。 (詫)

わが若き日に造物主を教えられたのは、クエーカーと日基の学校に於いてであった。それ故今なお、エキュメニカル・教会合同という言葉は、わたくしにとって痛切な意味を持つ。また、平和旬間と言われると、もの心つくやつかずで終戦を迎えた幼児体験がうずく。しかも、その合同礼拝の説教が、わが敬愛する聖人の同志、聖フランシスコ・サビエルのこととあって、生来の不精者が腰をあげた。…

礼拝の形式は学生時代の礼拝に似て、式辞ほども深い祈禱から祝禱まで首尾一貫、讃美歌の選曲の巧みさと相俟って（よきオルガニストに恵まれ、各曲最後まで歌えたことも嬉しく）、共に祈り勤めることの幸せを味わえたと思う。司式、協力、お世話役の皆様、そして**神様**、ありがとうございました。

（マリア・アウグスティナ・イグナシア 若山）

## 行事報告

### ∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞ 教会学校キャンプ（8月9日～12日） ∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞

1年生 なかつか

1日目は雨だったけど、どんなキャンプになるか楽しみだったよ。

キャンプファイヤーが楽しかったよ。だって最後に星の形になっていてきれいだったから。それと、テントでみんなで寝て楽しかった。リーダーの「生きるのはなし」を聞いて、みんなを大切にしようと思った。

またいきたいなー。

2年生 蒲原

キャンプで一番おいしかったものは、スパゲティーです。ごはんを作って下さったお食事リーダーありがとうございます。

キャンプで一番楽しかったあそびは、野球です。

夜のプログラムで一番おもしろかったのは、きもだめしです。プログラムを考えて下さったリーダーありがとうございます。

蛙とりで一番つかまえたのは、アマ蛙でした。

キャンプで一番きんちょうしたのは、たいし君の入門式できょうどうきがんをよんだことです。入門式は、はじめて見ました。入門式のさい初は何をやっているのかわかりませんでした。洗礼をうけるための入門の式でした。ぼくは洗礼式が赤ちゃんの時だったので、入門式はありませんでした。

来年もキャンプは、うわの高原だといいと思いました。

4年生 清水

私は今年のキャンプで、友達の大切さがわかりました。具体的には、オリエンテーリングの時に、特に、2・3・8・12番のポイントが、私の回った中では、協力できたと思います。どれも、みんな1人ではできないからです。協力できた事によって、友達の大切さは感じられたと思っています。リーダー劇では、棒と白い布とダンボールとうちわを使って、私の班では車を作りました。仲良し賞をもらえたので嬉しいです。来年もキャンプを楽しみにしています。

6年生 内田

僕は今までに5回キャンプに行っていて、その中でも、1番楽しかったのが今回のキャンプです。

なぜなら、雨が降ったりして、初めての経験が出来たし、いろんなリーダーや友達とも仲良くできてすごく楽しかったし良かったからです。

みんなが楽しみにしていたプログラムの時は、雨も上がって楽しくプログラムもできてすごくよかったし、そんな時は雨が上がるなんてやっぱり、神さまはいるという事を感じました。あと、いろいろな

経験も出来たり、いつもは見れない景色が見れてすごく楽しいキャンプになってよかったです。

6年生の班長としての仕事もちゃんとできてよかったです。

## 自由な生き方

行きバスの中で、私はS先生とこんな話しをした。猫って自由な生き物ですよ。確かに猫は、群れで行動することも、人間に頼り切ってしまうこともない。それなのに人間はかわいい、かわいいと思ってしまう。その中でS先生の家にいる猫の話が出てきた。「僕の家猫は、よくゴキブリとか、セミとかを捕まえてきて、僕に見せにくるんですよ。それも弱らせたまま、飽きるまで遊び道具にして。」どうしてこんなに残酷でかつ人間の機嫌をとることのない生き物が、好かれるのだろうか。

キャンプの間、私の班の子たちは、毎日、時間さえあれば、カエルを触っていた。まず、草むらの中にいるのを見つけ、捕まるまで追いかけてまわし、捕まえたら逃げないようにしっかり持って置いて、ちよっとからだを押してみたり、足を引っ張ってみたりする。あまりに長時間触っているので、私の方が、カエルかわいそう…と思うくらいだ。そんな姿を見ているうちに、S先生との猫の話を思い出した。子どもたちは、私が残酷やなーと思うくらいまで、カエルを遊び道具にして、思いっきりenjoyしていた。また子どもたちはリーダーに対しても、大人のように、自分を良く見せようとか、イイ子のように見せようとしていないようだった。やりたければするし、やりたくなければやらないし、自分の都合で生きているように見える。そう考えてみると、子どもというのは、本当に自由に生きているのだなと思えてくる。だからといって私のようなもう大人と言われてもよい人間にはこのような行動は許されない。周りのことを考え、自分の都合は後にまわして、周りの人の気持ちを考えることが求められる。

このキャンプが終わって私は、自分がどのように生きるべきかについて、新しい疑問が出てきた。夏休みが終わって、普段の学生生活が始まっても、心にとめておきたいと思う。(綾木)

## 教会学校夏のキャンプについてご報告とおわび

キャンプに関しまして、何よりもまず、大変なご心配をおかけしてしまったことについてお詫びを申し上げます。

帰ってきて、たまった新聞を読んだ、というより、大きな文字と恐ろしい写真を目にして、本当にびっくりいたしました。キャンプ地の兎野高原では雨こそ降り続きましたが、強い風が吹き荒れるでもなく、危険を感じるようなことはなかったからです。地形的にも、氾濫や土石流を起こすような川もなく、土砂崩れを起こすような山や崖もなく、災害の起こりにくいところです。雨で、野外活動ができないので、イグナチオホール2～3倍の大きさの集会棟という建物の中で、ミサを捧げ、遊び、食事をする事が多くなり、テントサイトからそこへの移動が、傘を差したり合羽を着たりで厄介でしたが、子どもたちはそれすら楽しんでいるようで、不平は聞こえてきませんでした。そして、二日目も三日目も、夕方からは雨も上がって、目玉のプログラム・肝試しとキャンプファイヤーは、ちゃんとすることができたのです。四日目は晴れて、後片付け、掃除などもスムーズに行うことができました。ただ、兎野は粘土質な土壌で、降り続いた雨のためぬかるみになって滑りやすく、すてんと転んでどろどろになった子どもも多く、帰ってからの洗濯がさぞ大変だったことと思います。

キャンプ中、子どもが1人、熱が高くなり、病院で気管支炎と診断されたためお家に送り返しました。その他、風邪や腹痛などで、病院で薬を頂いたりした子どもが数名おりましたが、これはキャンプではいつもある事です。皆、一晩で元気になり無事帰って参りました。今回のキャンプには、賛助のリーダーとして、お医者様、看護師さんの参加がありましたので、本当に心強いことでした。

このような状況で、寝食を共にした子どもたちが、いつもの教会学校では経験できないことを経験し、友だちとそしてリーダーたちとの絆を深めました。何よりも、それぞれの持ち味を發揮して、おおいにリーダーたちを楽しませてくれました。そんな教会学校ワールドにどっぷりつかっていたために、災害のことも知らず、そのために本当に心配なさっていたご家族や教会の方々のごことにまで思いをいたすことができずにおりました。もっと綿密な連絡が必要だったと反省しております。



子どもたちは、これからの教会、日本そして世界を担っていく宝です。神様に本当に見守られ、保護されているということを心から実感いたしました。心配して下さった方々のお祈りの力もあったと思います。心から感謝いたしております。  
(教会学校 阿部)

### 教会学校保護者及び関係者の皆さま

教会学校のキャンプにあたり、私の不注意で教会への状況報告が遅れ、皆さまにご心配をおかけしたことを心よりお詫び申し上げます。今後、このようなことがないように連絡体制を整えますので、どうぞ今後ともご協力をお願いいたします。  
(片柳 弘史神父)

### 行事報告

#### ∞∞∞∞∞∞∞∞∞ 納涼の夕べ (8月22日) ∞∞∞∞∞∞∞∞∞

8月22日、夏恒例の「納涼の夕べ」が行われました。まずは片柳神父様のフォト・アルバムの中から様子をご紹介します。



マシア神父様のスパニッシュオムレツ屋さん



談笑の声も響きます



浴衣姿もたくさん見かけられました



ライブも好評でした

## 各部だより

### 婦人会

9月4日(金)10:00 初金ミサ  
11:15 ミサ後例会  
講 師 片柳神父  
テーマ 「教会の明日を考える」  
—マザー・テレサの言葉を  
手がかりに—  
多数の御参加をお待ちしております。

### 社会活動部

9月4日(金)14:00 連絡会(第2会議室)  
チャリティバザーの打ち合わせをいたします。  
出店ご希望グループの方は、必ずご出席(代理出席OK!)下さい。

### 青年会

9月13日(日)12:30 定例会(助任司祭室)  
内容:「分かち合い」などを予定  
9月27日(日)12:30 定例会(助任司祭室)  
内容:「分かち合い」、チャリティバザー・  
練成会について話し合う予定

## 《お知らせ》

### 【三日月会より】

#### 第30回三日月総会のお知らせ

平成21年度三日月会総会を次の通り開催いたします。

世間では政権交代だの非正規社員だの大きな転換期に差し掛かっている時だけに新聞紙上は忌々しき記事で埋め尽くされた心の安らぎは見当たらない悲しい状態にあります。殺伐とした現代社会の中にあつて、カトリック信者として周囲の人々に希望と勇気を与えるために、われわれ自身に活力を取り入れることが必要だと思います。

三日月会ではご高齢になられた方々の信仰生活の一助になればと思ひまして、月毎の例会では講話とビデオによるお楽しみの時間を設けております。

今年の総会では、今春着任されました松村主任神父様のお話を聞いていただき、この機会に神父様のお人柄やお考えをたまわり、今後、親しく交流させていただきたく企画いたしました。

残暑厳しい折かとは存じますが、ぜひご参加賜りたくご案内申し上げます。

総会への出欠回答は聖堂入口に設置いたします受付ポストに、8月30日までにお入れください。なお、その間に投函できない方は恐れ入りますが三日月会あてに郵送願います。

#### 第30回三日月会 総会

- |         |                  |         |
|---------|------------------|---------|
| 1) 開催日時 | 平成21年9月21日(敬老の日) | 午後1時~4時 |
| 2) 場 所  | カトリック六甲教会 聖堂     |         |
| 3) 参加費  | 500円 (当日集めます)    |         |



- 4) 式次第**
- 第一部 午後1時～2時 ミサ**  
**午後2時～3時 松村神父様によるビデオとお話**  
**テーマ「GOTAISETSU」**
- 第二部 午後3時～4時 総会・懇談会**

敬老の日のプレゼントをご出席の皆様に教会から贈呈されます。

### 【社会活動部より】

**9/2(水)10:00 手芸の集い(第1・2会議室)**

どなたでも参加ご自由です。

**9/12(土)10:00 炊き出し(イグナチオホールお台所)**

小野浜グラウンドにて、配食やおじさん達のお話し相手だけでもOKです。

**9/17(木)14:00 ベタニアの集い(イグナチオホール)**

聖体拝領式と茶話会

**9/25(金) 9:30 ともしび ケーキづくり(イグナチオホールお台所)**

### 【宣教部より】

今年の平和旬間には道路際の二つの掲示板に大きな『平和への呼びかけポスター』を掲示しました。私たちは、教会の仲間内だけで平和を考え祈り求めるばかりでなく、教会の傍を通り過ぎる人にも何か平和へのアピールをしたいと考えました。機会を捉えては継続して神のメッセージを表現したいと思っています。この活動は宣教部の活動ではなくて、教会全体の意思表示であるべきと考えています。

今回の活動を通して気づいた反省やお願いなどをまとめてみました。是非これからも宣教部の呼びかけにご協力下さい。

反省：

1. パソコンを使って原稿をつくれれば、大きなポスターが安価で容易に出来ます。  
その意図が十分伝わっていなかったのか、素材の提供が少なかった。
2. せっかく提供していただいた写真などが、コピーであったため黒色で応用できなかった。
3. 宣教部員の合議で作成したポスターであるが、素人の作品という印象でアピール度が少ない感じがした。

お願い：

1. 道路際の掲示板は教会の看板です。私たちはみんな「地の果てまでキリストの教えを伝えるよう招かれている」ことをもっと具体的に自覚して協力して下さい。
2. 次回はクリスマスの季節に「クリスマスはキリストの誕生日であること」「神はすべての人を永遠の命に招いていること」などを掲示板を使ってアピールしたいと思います。何かよいデザインや方法などがあれば是非宣教部員まで提案して下さい。

## 『神の現存の体験』

ラウレンシオ修士著（ドン・ボスコ社）

当時26歳だった私は、これから始まるイエスとの新しい世界に心をときめかせて、神妙な面持ちで霊的母の前に座っていた。その時、静かに手渡されたのがこの本である。彼女は言われた。

「まず、これをお読みなさい。ここに書かれていることは、霊的生活の“基礎”であり、“到達点”でもあるのですよ」と。

日本語訳は1905年に、まずプロテスタントの出版社から出された。

著者は1614年生まれのカルメル会士だ。彼の魂は神の単純さをまとい、純潔な霊性によってその香りを放っていた。いろいろな霊的著述家が、その著作の中で彼のことばを引用している。

彼は司祭の生活を助ける「助修士」の身分だったので、修道生活の大部分の時間を料理や買い出し、靴製造などの務めの中に過ごしていた。彼は、ただ一つの修行「神の現存」に励み、愛深く、楽しく、神との親しさのうちに生涯を送った。彼は「神を愛するために創られた私たち人間」が、その目的に適うための最短、最強の道を教えてくれる。本著の序説・霊的訓話・談話・手紙は、そのノウハウや心構え、彼自身の体験を明かし、私たちに励ましてくれる。

家事・介護・育児・仕事・奉仕活動などに追われる日常も、「神を愛せない」「祈りが深まらない」理由にはならない。かえって「神の現存」、すなわち「今、ここにおられる主において、主とともに、主のうちに生きること」を深めることによって、あらゆる営みが「イエス・キリストと愛し合う時間」となることに気づかされる。今回読み返しても、反省と憧れが再燃し、私自身一からやり直す必要に目覚めさせられた。

神の子として「自由に単純に清く生きたい」「忙しい毎日の中でも、神を愛したい」「初心に戻りたい」と感じておられるすべての方にこの本をご紹介します。

彼はある手紙の中で次のように記している。深く心にとめて、味わいたい。

「神とともにいるためには・・・私たちの心を祈祷所にして静かに、謙遜に、愛深く、神とともに語るため、時々そこに退くことができます。・・・勇気を起してください。私たちに残された生命は、もう短いと思います。・・・神とともに生き、神とともに死にましよう。神とともにいる時は、苦しみも、常にいっそう甘味で快いものとなりましよう・・・」  
(古泉)

## 9 月 の 予 定

日	曜	教会暦	教会行事
3	木	聖グレゴリオ一世教皇教会博士	
4	金		初金 7:00 10:00 ミサ 婦人会例会
5	土		14:00 教会学校 2 学期始業式
6	日	年間第 23 主日	7:00 9:00 11:00 ミサ 14:00 結婚準備セミナー開始(9/27 まで) 17:00 海星病院ミサ
8	火	聖マリアの誕生	
10	木	日本 205 福者殉教者	
13	日	年間第 24 主日	7:00 9:00 11:00 ミサ 9 時ミサ後 秋の墓参 13:00 侍者会 17:00 海星病院集会祭儀
14	月	十字架称賛	
15	火	悲しみの聖母	
16	水	聖コルネリオ教皇 聖チプリアノ司教殉教者	
17	木		14:00 ベタニアの集い
20	日	年間第 25 主日	7:00 9:00 11:00 ミサ 17:00 海星病院ミサ
21	月	聖マタイ使徒福音記者	13:00 三日月会ミサと総会
23	水	聖ピオ(ピエトレルチーナ)司祭	
26	土		10:30 哲学講座 13:30 雨宮神父の旧約聖書講演会
27	日	年間第 26 主日 世界難民移住移動者の日	7:00 9:00 11:00 ミサ 13:00 侍者会 13:30 雨宮神父の旧約聖書講演会 17:00 海星病院集会祭儀
28	月	聖トマス西と 15 殉教者	11:00 ベビーとママの集い
29	火	聖ミカエル 聖ガブルエル 聖ラファエル大天使	
30	水	聖ヒエロニモ司祭教会博士	

**編集員のつぶやき** 朝夕が涼しくなってきました。暑かった今年の夏もこれで終わりなので  
 しょうか？それは少し寂しい気もしますが…。今回の教会報にはこの夏の思い出が沢山届きました。  
 皆さまは、どのような夏をお過ごしになりましたか？ 何を感じられましたか？ ★ふい★

教会報 10 月号の発行は9月 27 日(日)です。 編集会議は9月 20 日(日)です。 記事原稿は、9月 13 日(日)正午までに信徒会 館受付へご提出願います。 (広報部) <a href="http://www.rokko-catholic.jp">http://www.rokko-catholic.jp</a>	<b>カ ト リ ッ ク 六 甲 教 会</b> 〒657-0061 神戸市灘区赤松町 3-1-21 電 話 078-851-2846 F A X 078-851-9023 発行責任者 松 村 信 也 神 父 編 集 広 報 部
---	---